



あじさいネット OFF LINE 通信

vol. 13



ハウステンボスにて撮影 写真提供：村上医院 村上英世先生

目次

地域医療連携システムの更なる発展をめざす

あじさいネット 会長 小尾重厚 先生 2

会員様の声

貝田整形外科 貝田勇治 先生 3

谷川放射線科胃腸科医院 谷川健 先生 4

村上医院 村上英世 先生 5

ペンギン薬局 中村美喜子 先生 6

情報提供病院のご紹介

JCHO 諫早総合病院 医療連携室 7

「TV会議システム」 キーパーソンに聞く

長崎県小児等在宅医療連携拠点事業事務局 岡田雅彦 先生 8

TV会議システム 9

現在の運用状況

(平成 26 年 12 月 24 日現在)

- 患者登録数：41,514 名
(あじさいネット説明同意書 取得済)
- 会員数：437 名
- 情報閲覧施設数：240 施設
(内、薬局数：45)
- 情報提供病院数：27 施設

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株)医療ソリューション事業部
- (株)LSI メディエンス
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTT データ 公共システム事業本部
- オフィスメーション(株)

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会

あじさいネット会長 小尾 重厚 先生

「地域医療連携システムの更なる発展を目指す」

●活用されている証拠●

平成二十四年より佐世保地域が参加したことであじさいネットが長崎県内に張り巡らされ、全県展開が出来上がりました。

現在、情報提供病院は離島を含めて二十七施設、地域ごとに医師会単位で入会が進み、会員は約四百人です。患者登録も順調に増えていきます。最初の頃は年間約二千〜三千人でしたが、今では毎月約千人が登録され、あじさいネット開始から十年で四万人を超えるほどとなりました。

会員が増えたことが大きな要因でしょうが、患者さんの情報閲覧に必要性を感じ、あじさいネットを活用されている証拠だと思います。

●診療報酬の

加算を目指して●

あじさいネット発足当初の段階から目指してきた、医療機関を結ぶ基礎となるライン作り、セキュリティの高いネットワークを運営する仕組みはほぼ出来上がりました。これから先は運営の仕方を考えなければいけません。

私が次の方向性として考えているのが診療報酬への加算をさせていただくことです。ICTを使って情報を共有していくことがインセンティブとなり、会員の会費額や情報提供病院が投資している金額に見合った点数か、何かしらの保証をしてくれる体制ができれば使用頻度は更上新台阶だと思います。それにより全国的な展開も期待できます。

患者さんやそのご家族は全国を行き来しているのですから、県外に繋がり、どこであっても自由に見れるのが本当の医療のICT化です。あじさいネットだけではなく、他にもネットワークがいくつもできていますが、補助金がなくてもしっか

り運営できる基盤作りが必要ですので、他の県のネットワークとも連携し、適正な診療報酬を得られるように取り組みたいと思います。

●周産期医療支援システム

への期待●

周産期医療支援システムが今年の一月から本格的に動き出す予定です。

我々産婦人科では、準備段階として妊婦さんのデータをiPadを利用して入力しているところです。体重や血圧の数値などのほとんどは助産師が入力しており、医者は診察して投薬時の情報に加える程度ですので診療に差し支えるということはありません。

現在、長崎市では妊婦さんの基本情報登録を行政に行っていただけかと思われ進めています。児童虐待が隠れている場合などには妊婦健診を受けていないケースもあり、母子手帳を発行するのと同時に本システムに登録することで未受診の妊婦さんが分かり、虐待を発見する手掛かりにもなります。

また、小児科が行っているワクチン接種のデータを登録するようになれば、いざ小児管理システムを構築するための道筋ができるかと思えます。

皆が少しずつ手間をかけることで貴重なデータが蓄積され、後々有効に活用

されることとなります。医療の将来に寄与するためには皆の協力が必要です。まずは産婦人科の先生方に周産期医療支援システムへ参加して頂くことを期待しています。

●キーワードは

「認知症」と「在宅」●

現在、あじさいネットの新たな機能として疾病管理システムが準備されつつあります。これは、癌や糖尿病など専門性の高い疾患や慢性疾患を情報提供病院の専門医と診療所医師が共同で利用して、質の高い地域医療を目指すのですが、すでに大村で運用している糖尿病疾病管理システムをはじめ、癌地域連携パスなど徐々に対象疾患が広がっていくものと思えます。

また、これからの十年間は「認知症」と「在宅」がキーワードとなり医療と介護の需要が更に増していきます。地域で高齢者を支えるためには医療機関の多職種連携が大切ですので、包括的なケアを目指して体制を整えていきたいと思えます。

今年には歯科医師会にあじさいネットへの入会を働きかけ、一緒に地域包括ケアシステムを推進していくことを考えています。



◆NPO 法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会 会長
◆おび産婦人科 院長



医療機関の連携は医療の手助け、患者さんの安心感に繋がる



PROFILE

昭和 62 年 埼玉医科大学医学部卒
平成 24 年 あじさいネット入会
◆ 貝田整形外科 院長

● ● あじさいネットから得られる
● ● 情報の重要度は増していく ● ●

諫早の中心的な病院である諫早総合病院が情報提供病院になったのを機に、二年前にあじさいネットの会員となりました。高齢の患者さんは言われることが不明瞭な場合もありますし、全てを鵜呑みにするわけにもいきませんので、基幹病院にかられていることが分かれば、あじさいネットを利用して情報を得ています。患者さんの高齢化が進んでおり、何らかの合併症を有している方が多いため、診療していく上で、あじさいネットからの情報の重要度は今後増していくことと思います。

正確なデータが見れること、また、基幹病院に紹介した患者さんの治療経過を見れるというのは大きなことです。特に画像が役に立っています。当院と連携して診てもらっている基幹病院で同じ日にレントゲンを撮ってこられた方がいらしたら、アクセスしてレントゲンを確認できるので二度手間になりません。

諫早市東小路町
貝田整形外科 かいだ ゆうじ
貝田 勇治 先生

TEL : 0957-22-0336

被曝も少なく済みますし、費用の無駄も省けます。薬の副作用の問題がある場合や、治療をする際に情報が必要な場合でも確実に認ができるので助かっています。患者さんにとつても、我々医者にとつても様々なメリットがあります。

あじさいネットの同意を患者さんに断られたことはこれまでありません。信頼関係が必要だとは思いますが、初診の方でも大丈夫でした。連携先と「どんな一緒に見てくださーい」という言葉が患者さんとの会話の中で出てきます。

地域医療の中で、病院や診療所が連携することは医療の手助けになりますし、患者さん目線でも、「複数の医療機関が一緒になって自分を診てくれているという安心感」を患者さん自身が得られるのは大事なことだと思います。

● ● シンプルで使いやすい ● ● 簡易版あじさいネットの必要性 ● ●

機能的に発展していくことは大事ではありますが、それと同時に、電子機器に疎い年配の先生でも扱いやすい、「簡易版あじさいネット」を作っていただけないかと期待しています。

あじさいネットは一度使えば無いと困るものでして、シンプルで分かり易いものから始めてみて、便利さを実感していただければその後も長く活用されるのではないかと思います。医者には定年がありません。意思があれば七十歳、八十歳まで続けられます。多くのユーザーが幾つになっても使い続けられる年



視線の先には貝田先生のおじい様。歴史深いモノクロのお写真と共にご先祖のお話を聞かせていただきました。先生の座右の銘は「温故知新」。時代と共に変わりながらも昔のことを大事にされているようです。

配用「シルバーあじさい」なるものを作っていただけたらいいですね。

まずは使ってみたいと思っていただけけるよう広報活動を行い、在宅の方も手軽に扱え、苦手意識を持たれている方でも簡単に使えるものがあるとなれば参加者が更に増え、あじさいネットは益々良いものになるのではないのでしょうか。

● ● リフレッシュには ● ● テニスとドライブ ● ●

休日は家族と一緒にいることが一番いい過ごし方だと思っています。リフレッシュするにはテニスとドライブですね。九州のあちこちへ、もつと遠出したいところですが、仕事柄なかなか時間がとれませんので、大村湾を一周したり、福岡や熊本くらいまで出掛けています。

● ● 科は継がないことが伝統 ● ●

祖父の代からこの場所で開業し、父親が建てた建物を改造して利用しています。耳鼻科から始まって、外科、整形外科と当院は代々科は継がずに医者が続いています。それが当院の伝統かと思っています。

患者さんと親密になれる、診続けられる、それが「あじさいネット」



PROFILE

平成元年 長崎大学医学部卒
平成 22 年 あじさいネット入会
◆(医)谷川放射線科胃腸科医院
理事長

●●あじさいネットから学ぶ●●
近年、病診連携の必要性がマスメディアで取り上げられており、医療機関が連携して情報を共有する重要さを感じたのが、あじさいネットへ入会するきっかけとなりました。
患者さんの情報を拠点病院やかかりつけ医、かかりつけ薬局が共有することで詳細な把握ができ、薬や検査の重複が避けられ、無駄がなくなります。それに、中核病院で行われている精密検査や新しい病気に対する情報が入るので、最新の医療について学ぶ上でも大変役立っています。
知識を得たいという気持ちはあるものの、専門書を読んだり、研究会に行く暇がなかなかありませんので、あじさいネットで新しい言葉が出てくると、そこから自分なりに調べたり、診断のテクニックを学ばせてもらっています。あじさいネットは、私には優れた教科書みたいなもので、患者さんにとって一番良い治療法を見つける手助けにもなっています。

長崎市若葉町

たにがわけん

(医)谷川放射線科胃腸科医院 谷川健 先生

TEL : 095-844-0417 <http://www.tanigawaiin.jp/>

●●患者さんと親密になれる
隠し技術的なツール●●

病院からの紹介状だけでは経過が分かりませんが、あじさいネットでは入院中もシームレスに患者さんの状況を把握できます。いつ退院されたのか連絡が来る前に知ることができますし、ずっと気にかけていた方がどういった亡くなり方をされたのかも分かります。それに、病院で手術を受けた際のことなどについて患者さんにお声掛けすると、自分のことをよく把握してくれていることに、安心されるのではないかと思います。

得る情報は医療に関することだけではありません。ご家族のことやトラブルについての情報には接し方を考えさせられる場合があります。また、患者さんの言葉がそのまま記載されており、読んでいて楽しくなることもあります。あじさいネットは、患者さんのことをより理解でき、親密になれる隠し技術的なツールでもあると思います。

●●あじさいネットで

患者さんを診続ける●●

私は、あじさいネットで一人ひとりの患者さんはずっと診ています。長い方は年単位です。情報を共有することで医療に参加し、患者さんの経過観察が続いています。今後、双方の情報連携が進めば、患者さんにより良い医療を提供できますので、医療機関が協力し合い、情報を有効に活用していきたいと思っています。また、地域医療の中で皆をサポートしてくれているあじさいネットが更に普及し、多くの方に利用されることを期待しています。

●●理想の休日と現実●●

何もせずにぼーっとしたり、一人で車に乗って温泉にでも行きたいのですが、実際のところ、週末は朝から晩までカルテ整理に追われて終わってしまいます。休みはあつてないようなものです。イーグルスやドゥービーブラザーズ、イエスといった好きな六十九〜八十年代の洋楽を聴きながら忙しい日々を送っています。

●●去る者追わず、来る者拒まず●●

「去る者追わず、来る者拒まず」が座右の銘です。当院は多くの医学部、専門学校の研究修生を受け入れています。一緒に在宅患者さんの家を訪問して、検査に立ち会わせたりしています。学びたいことがある方にはどんどん来てもらって、当院でやってみなければやってもらえないし、他に何かやりたければ飛び出すのもいいという思いがあります。あじさいのようになくさの花が開き、彼らの中からいつか誰かがドクターとなって当院を手伝ってくれると嬉しい限りです。在宅医療、外来、検査に興味のある方を募集中です。

The cherished cars for house call

往診車は元気が出るイエローカラー。ドイツから取り寄せたものもあり、こだわりが詰まったカスタマイズ車だそうです。マンションに住んでいる方に来たことが分かるよう、天井にはホームページのアドレスが載せてあります。1日に100キロ近く走るほど大活躍です。

「あじさいネット」で診療所と病院間がスムーズに！



PROFILE

昭和48年 長崎大学医学部卒
平成24年 あじさいネット入会
◆ (医) 平世会 村上医院 院長

佐世保市広田

(医)平世会 村上医院 村上 英世 先生

むらかみ えいせい

TEL : 0956-38-1026 E-mail: emurakami-sas@nagasaki.med.or.jp

● 問い合わせることなく

● 必要な情報が得られる ●

病院に勤務していた頃、開業医の先生からの紹介患者を大切に、検査結果、手術日や経過、退院日などを必ず診療所へ連絡するようにと先輩から指導されていました。後に、自分が開業して紹介するようになると、患者さんの状況が大変気になり、言われていたことの重要性を改めて感じるようになりました。

患者さんのことは病院の先生に電話で聞きしていましたが、呼び出してもらってもなかなか電話口に出られず、忙しいところを申し訳なく思い掛け辛いものでした。メールでのやり取りも考えてみましたが、上手くいきそうにもありませんでした。

今はあじさいネットを利用し、病院に紹介した患者さんの詳細な状態や、治療方針を知ることができるので大変助かっています。先方の先生の都合を気にしながら問い合わせることもなく、パソコンを見るだけで分かります。

これは大きなメリットです。ご家族が来院された際、患者さんの状態についてお話することもあります。

また、以前は紹介患者さんのレントゲンフィルムがたまって保管が大変でしたが、あじさいネットのおかげでフィルムレスとなりました。

● 双方のやり取りが

● できるシステムを期待 ●

専門はもともと外科ですが、プライマリ・ケアを目指して開業したため、当院の外来は小児から高齢者まで幅広く、内科、外科、整形外科など多種多様な疾患の患者さんが来院されます。そのため、どうしても自分一人では解決できないことが多く、意見を伺いたいと思うことがあります。レントゲンの読み方や、紹介するべきなのかどうか、どういう風に診断を進めればいいのかお尋ねしたい時、あじさいネットを使って気楽に相談できるシステム（双方向のやり取り）ができればと思っています。

また、基幹病院に紹介した患者さんが別の病院に紹介された場合、情報を得るためには再度同意を得なければいけません。患者さんが当院にいらっしやらない時は同意が取れずに情報が途絶えることになりまますので、連絡をしていただければ助かります。

一人の開業医としてあじさいネットは欠かせない存在です。病診連携を更に進めていく上でも、あじさいネットは非常に大事なネットワークで、一番役に立つのではないかと思っています。

● 休日には外に出て体を動かし、

● 今を明るく、楽しく生きる ●

朝から夕方までは診療に全力を注ぎ、食事とトイレタイム以外はほとんど患者さんと向き合っています。その後は、病室の回診、書類の整理などで一日が終わってしまいます。そのため、休日が本当に待ち遠しいです。

月一のゴルフや朝のウォーキング、ドライブ、ベランダの植木・花の手入れなど、とにかく外に出て、めいっばい体を動かすことに楽しみを感じています。コンピューターを扱うことや写真を撮ることも好きです。診察室の机の前にはフォトフレームを壁に飾り、時折眺めています。ハウステンボスの会員ですので、イベントが開催されるたびに出掛けては、花や四季折々の風景を撮影しています。花火を撮りたくていつも挑戦しているのですが、これがなかなか難しく思うようにいきません。上手に撮れるよう技術を研究中です。

開業して二十七年、六十六歳となりましたが、ゆとりを持って「今を明るく、楽しく生きる」を座右の銘にして頑張っています。



村上医院のシンボルマークは先生のお気に入り。十字は病院、緑色は安全、デザイン化した三羽の鳩が村上のイニシャル「M」の文字を表しているとのこと。一羽ごとにも意味があり、「新鮮で清らかな医療」を提供し、「地域の豊かな健康」と「永遠の平和」への願いが込められているそうです。

あじさいネットの情報で、患者さん一人一人に一步踏み込んだ服薬管理指導を



PROFILE

昭和 57 年 昭和薬科大学薬学部卒
平成 25 年 あじさいネット入会
◆ペンギン薬局 薬剤師

●●情報を活用すれば
あらゆる場面で役に立つ●●

訪問薬剤管理指導を行っている患者さんには、拠点病院と在宅医を併診されている場合がよくあります。あじさいネットを利用すると、拠点病院での診察内容や血液検査データ、服薬状況、看護サマリー、入院時の情報が得られるので、より適切な服薬管理や処方提案することができ、非常に役立っています。

例えば、腎機能が悪化している患者さんに対する薬の適正量を先生に尋ねられた時には、あじさいネットで患者さんの状態を把握しているからこそ、適正な処方量を決定することができました。

また、拠点病院の外来を受診されている患者さんより、薬が一つ足りないのでは、と窓口で尋ねられた際、先生に問い合わせる前に処方漏れであると分かったこともありです。あじさいネットで診察時の内容を見たところ、ある症状が出たために薬を出すことになっていましたが、処方箋には追

長崎市中小島

ペンギン薬局

なかむら みきこ

中村 美喜子 先生

TEL : 095-825-8775 E-mail:penguin@leo.bbq.jp

加されていませんでした。その後、先生に確認をとって薬を処方しましたが、このような場合にも経緯が分かるので便利さを感じています。

今は拠点病院のみ情報を提供されていますが、いずれ個人医院さんの情報もあじさいネットで見れるようになることを期待しています。お薬手帳を利用して管理できればいいのですが、拠点病院と個人医院さんの薬の処方が重複していることが少なくありません。相互で情報交換ができるようになれば、有用性が増して投薬重複の問題も解消できると思いますし、更に活用法も広がっていくと思います。

●●学んだことを次に活かす●●

在宅患者さんへの薬剤管理指導を行うには、生活や好みなど患者さん自身のことを知らなければ難しいものです。情報収集もしてありますが、実際にやってみないと分かりませんので、思いつくことを一つずつ試しています。

在宅訪問を通して皆さんの生活が見えるようになったことで、窓口での投薬時に以前より一步踏み込んで患者さんと接するようになりました。起床時間や食事の回数を聞いて、いつ薬を飲むといいのかといった話をしています。薬剤師の視点からアドバイスできることがあればという思いです。

一度経験したことは、いつかまた巡って来ます。様々な患者さんと出会い、真摯に向き合うことで学んだことや得られた知識を今後に活かしていきたいと思っています。

●●温泉に行ったら

美味しいものを食べる ●●

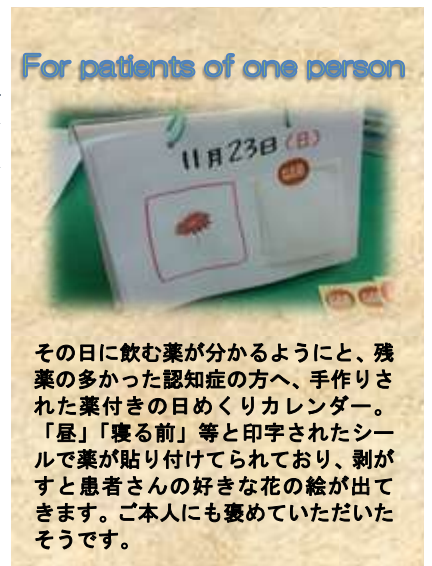
休日は、家の片付けや庭の手入れ、保存食作りをして過ごしています。あまり取れない休みですので、その日一日はじっとしていられます。たまに季節を実感できる小旅行に出掛け、現地で特産品を買うことが楽しみです。一番好きなのは温泉に行ったら美味しいものを食べることです。

●●良いことをしていれば

きつと何とかなる ●●

「善因善果」が座右の銘です。よいことをしていればいずれ良い結果に報いられるということですが、それがまた良いことに繋がります。ずっと続いていくのだと思います。逆に、悪いように考えていると、どんどん悪いことを呼んでしまいます。

皆生きていけばいろいろとあるでしょうが、考えていてもしょうがない、良いことをしていればきつと何とかなるだろうと思っています。とりあえず、今自分が良いと思うことをやるという気持ちで毎日過ごしています。



その日に飲む薬が分かるようにと、残薬の多かった認知症の方へ、手作りされた薬付きの日めくりカレンダー。「昼」「寝る前」等と印字されたシールで薬が貼り付けてられており、剥がすと患者さんの好きな花の絵が出てきます。ご本人にも褒めていただいたそうです。

情報提供病院のご紹介

JCHO 諫早総合病院 医療連携室

諫早総合病院は、平成 25 年 3 月に診療情報提供をスタートしました。
「仁愛 ~思いやりいつくしむ心を大切に~」を病院理念としています。

Message / 君野孝二 院長

どの病院でも同じだとは思いますが、仲介が上手くいかないことにはやっていけないのが現状です。医療連携室のスタッフと診療所の先生の間がどれだけ顔の見える関係であ

り、診療所の先生と当院の先生との間にあって支えています。患者さんを診て、そして診療所にお戻しする中で、医療連携室の業務は多岐にわたり、スタッフは様々なトラブルを経験しました。このため、徐々に人数を増やして、現在は九名で対応しています。

電子カルテを平成十八年に導入し、それと同時に、紹介患者さんと外来に通院している患者さんに限定して完全予約制にしました。患者さんを紹介していただくには、先生同士が電話でやり取りをするのが確実な方法なのでしようが、それではとても診療所の先生も、受け入れる当院の先生も多忙になって整理がつかえません。円滑に運営していくには、医療連携室がどれだけ機能するかによってくると思います。

● 地域医療の連携には

● 人間関係が大切 ●



PROFILE

昭和 51 年 長崎大学医学部卒
◆平成 20 年より諫早総合病院 院長

るかが重要になってきます。また、当院の先生の数も少しずつ増えてきて、現在、七十名前後の先生たちが勤務していますが、診療サイドと医療連携室がやはり上手くいかないことと診療が目指すには、何よりも人間関係が一番大切だと思います。

● 情報提供病院として期待すること ●

当院は、「High ネット」というカルテ情報を提供する独自のシステムを構築していることもあってあじさいネットへ参加していません。その先生方のあじさいネットへの加入が少ない理由の一つとしてあったようです。多岐面からあじさいネット参加の要望があり、いい機会だと思いい、二年程前にあじさいネットの情報提供病院となりました。しかしながら、まだ入会者数が思うように増えていないようです。医師会の先生方に浸透していくことを期待しています。

また、当院に患者さんを紹介いただいた際、CTやMRIがあじさいネットでは見れません。そのため、CD-Rを送っていただき、パソコンを立ち上げてから見るまでに手間がかかっています。電子カルテを導入して思う利点の一つは、どこであつても電子カルテをすぐ開けるといふ簡便さです。同じようなことを診療所の先生方も期待されているのではないのでしょうか。

現在、当院の画像を診療所の先生が見れるよう対応しているところです。病院のCTやMRI等の画像や読影所見を閲覧することにより、診療の手助けとなることを期待しています。

● 医療連携室のスタッフより ●

【診療所の先生方へ】

患者さんが紹介状とあじさいネットの同意書を提出される場合、一緒に撤回届も出されておられず、ご理解されていないようです。診療所の先生方も忙しいかと思いますが、患者さんに十分な説明をしていただければ幸いです。

【あじさいネットへの要望】

現在、医療連携の手段として電話・ファックス・紹介状など多様なものを使いこなさなければいけない状況です。あじさいネットで纏めて利用できれば利用価値も更なる上がると思っております。近い将来、このような医療連携ができる時が訪れることを望んでおります。



右から：久松様（総務企画課 経営企画係長）
後藤様（医療連携室係長）、君野院長、福田様
（看護部長）、平山様（医療連携室長）

「TV 会議システム」 キーパーソンに聞く

長崎大学病院 小児科
長崎県小児等在宅医療連携拠点事業事務局

岡田雅彦 先生



PROFILE

■平成2年 長崎大学医学部卒
■平成2年 長崎大学病院小児科

●長崎県の

小児在宅医療への姿勢

小児等在宅医療連携拠点事業は、平成二十五年度に厚生労働省より公募され、長崎県は昨年度に続き今年度も採択されました。県からの委託を受けて長崎大学病院の小児科に事務局を置き、この事業の中心として活動しています。

全国的にNICUのベッド不足が慢性化しており、長期入院の患者さんを在宅医療へ移行する取り組みが進んでいます。長崎県では、医療資源を把握し、どの地域であつても同じレベルの医療サービスを受けられるよう支えるとともに、研究会や講習会等を通じて小児在宅医療に関する各機関の質の向上、強化を目指しています。スローガンには「知る」「増やす」「つなぐ」を掲げています。

●小児在宅医療の現状

大人の在宅医療に関しては広がりつつありますが、子供の場合は違います。医師、看護師の在宅訪問だけ

でなく、デイケア、デイサービス等を受けられる施設も限られており、需要を満たせていません。

小児在宅医療が難しい点として、年齢とともに利用できる手当や福祉が変わること、就学についての問題等もあり、関わる職種が多いことが考えられます。また、子供の診療や介護に対する経験値が低いため、訪問介護に踏み切れない場合が少なくないことが分かりましたので、まずはこの状況を関係者に知ってもらい、利用できる医療資源を増やすため、毎月一回、技術講習会を開催することにしました。

●テレビ会議

システムの効果

一年目の技術講習会は、遠方のため参加できなかった方に撮影したものをDVD化して配っていました。講義形式でしたのでそれでも構わなかったのですが、今年は、実際に子供を受け持つ側の日々の問題をどう解決していくかを話し合う場にしたと考えていました。あるステーションから症例を出していただき、悩みや問題に対して皆で意見を出し合うのです。方々から一カ所に集まることは難しいでしょうが、県全体の事業であり、多くの方に参加していただきたいと思うところ、あじさいネットの「テレビ会議システム」がちょうど開始されたことを知

り、利用することにしました。

最初は長崎市の症例を長崎県医師会館から発信するばかりでしたが、他の郡市医師会館から発信していた際、長崎市側の司会が発表を促すとすぐスライドが出てきて、あたかもそこでプレゼンしているかのようでした。私達はずっと発信する側でしたので、どのように見え、聞こえているのか分からなかったのですが、その時にこれはぜひ続けていこうと思いました。

一方的に発信するだけでは受けとめてくれているのか定かではありませんでしたが、県内の多職種間で問題を共有でき、質問や意見を出し合えるという予想以上の収穫がありました。徐々に小児在宅についての理解が深まってきており、TV会議システムはこの事業の中で重要な存在になってきています。また、回数を重ねるごとにTV会議上でも顔見知りになり、人間関係も良好になっています。

●小児在宅医療についての

今後の展望

今後は、あじさいネットを利用して小児在宅医療に必要な医療資源を提供できないかと考えています。小児は、成長することで、体、病気の状態、必要な環境が徐々に変わっていきますので、小児に対する情報関係者で共有しながら、様々な職種



第8回「小児在宅医療技術講習会」の様子

11月12日(水) 19:00~20:30 (長崎県医師会館・大会議室)

に必要な医療や介護福祉を提供したいと思っています。そして、在宅のケアセンターを作り、この情報を管理していく中で新たな問題が出てくれば皆で検証するのです。

ただ、現在は参加できる職種が限定されていますし、各機関が簡単にあじさいネットを利用できる環境が必要ですので、もっと普及していくことを期待しながら、我々も施設を選ぶ際に断られないようにスキルアップしていかねなければいけません。face to faceの関係を更に向上させ、在宅医療を必要としている小児と家族が安心して生活できるネットワーク構築を促進させていきたいと思っています。

あじさいネット TV会議システム

AMEC 【AJISAI-net Medical Education & Communication】

質の高い地域完結型医療に向け、医療機関間の協力体制の充実が求められています。このため、複数の医療機関間の情報共有やカンファランスが必要とされ、多忙な業務の中、広域から多職種が一同する様々な会議やカンファランスに参加することは決して容易ではありません。これには昨今、様々な分野でも普及しつつあるテレビ会議が有用であり、今後、医療分野でのテレビ会議利用が活発化していくものと思われます。但し、そこで議論される内容の対象は患者の診療情報でありますので、高セキュリティネットワーク上で運用している「あじさいネット」上に『テレビ会議』を実現いたしました。

【AMEC 4つの機能について】

講義・講演中継&教育 Medical Conference LIVE & Education

- ・会場まで出向かなくてもライブで講義や講演会の視聴ができます。
- ・ネットからの参加者は、質問ができます。



コンサルテーション Medical Consultation

- ・診療所にいながらにして、診療所間でチャットや画像を使って簡易相談ができます。



TV会議 Medical Net-Meeting

- ・少人数から多人数まで、会議ができます。
- ・離島やへき地からも会議に参加でき、移動時間のロスを防ぎ、交通・宿泊費の削減が可能です。
- ・緊急時にもすぐに打合せができます。



医療関係ビデオ配信 Medical Library

- ・講演会や重要な会議の録画を視聴できます。
- ・自分の好きな時間に自己学習および研修ができます。



- 無料、有料コンテンツを保存し、将来的にストリーミング配信いたします。

Medical Library 医療関連ビデオ配信 利用イメージ

あじさいネット
「ポータルサイト」
※AMEC ボタンより
お入りください



＜AMEC top画面＞



＜検索画面＞



検索は、
◆日付
◆タイトル
◆診療科目
◆演者
◆講演会場
◆キーワード
から

＜診療科目 検索画面＞



＜映像再生 イメージ＞



「よか!」ボタン

※動画が「よか!」と思ったら
ボタンをクリック!

＜医療関係ビデオ（講義・講演・カンファランスなど）配信の対象と目的＞

- ①学会、研究会などに参加しにくい開業医さんのための生涯教育。
- ②離島、へき地の医療機関に勤務中で、最新の医療関連情報が入りにくい看護師さん。
- ③非常に興味があるのに、勤務の都合で聴講できない勤務医さん。
- ④できるだけたくさんの知識を身につけたいが、受け持ち患者の都合で参加できない研修医さん。
- ⑤日々の事務に追われ、専門知識を学ぶ機会を確保できない病院事務員さん、介護・福祉従事者さん。

コンテンツ募集中!

これらのことをかなえる「コンテンツ」をそろえることで、長崎県全体の医療従事者（医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカル、介護・福祉従事者等）が、それぞれの分野で必要な最新の医療、介護情報等、専門的な知識が学べます!





HOGY®

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 **ホギメディカル**

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344

Empowered by Innovation **NEC**



見つめているのは、
人びとの暮らしです。

人びとが安全・安心で豊かに暮らせる社会のために、
私たちは先進的なICTで貢献します。

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ
〒108-8001 東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル) TEL:03-3798-6756

<http://jpn.nec.com/>

THE KAITEKI COMPANY 三菱ケミカルホールディングスグループ

2014年4月1日、弊社(旧三菱化学メディエンス株式会社)は社名を変更しました。



株式会社 LSI メディエンス

ヘルスケアの未来を変えていく。

健康で安心な社会を創造していくというビジョンのもと、より多くの人々にKAITEKIを届けてまいります。

LSIメディエンスは、三菱ケミカルホールディングスグループの新たな事業会社として2014年4月1日に発足した株式会社生命科学インスティテュート(Life Science Institute, Inc.: LSI)のグループ企業となりました。



株式会社 LSI メディエンス

〒101-9517
東京都千代田区内神田一丁目13番4号
THE KAITEKI ビル

- 臨床検査(生化学的検査・血液学的検査・免疫学的検査・微生物学的検査・遺伝子関連検査・病理学的検査・その他検査)
- 健康診断支援サービス ● 医療関連サービス ● 体外診断用医薬品・体外診断用機器・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入
- 医薬品開発支援サービス(医薬品探索支援・非臨床試験・臨床試験) ● ヒト細胞による薬効・毒性評価 ● 遺伝子・タンパク解析
- 医薬品・農薬・化学品・食品添加物・化粧品等における安全性評価・環境リスク評価サービス
- 食の安全サポート ● ドーピング検査



「つなぐ医療」から、
「支える医療」へ。



shaping tomorrow with you
社会とお客様とのつながりを実現するために

富士通は、
医療の未来をカタチにしていきます。

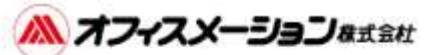
地域医療ネットワークの整備が進むなか、富士通は、地域と住民を「支える医療」にいち早く着手。災害時の事業継続、ビッグデータによる個別化医療、創薬の加速化をサポートします。

HumanBridge EHRソリューション

製品・サービスについてのお問い合わせは
富士通コンタクトライン(総合窓口) 0120-933-200
(受付時間 9:00~17:30 土・日・祝日・年末年始を除く)
<http://jp.fujitsu.com/solutions/medical/products/humanbridge/>



長崎県下の
お客様から
情報技術分野で
必要とされる会社へ。



長崎市金屋町2-6 電脳BLD.
095-822-7201
<http://www.nagasaki-om.co.jp>



ハウステンボス「バラ祭り」にて撮影
写真提供：村上医院 村上英世先生

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が 50,000 円 必要となります。尚、初期設定費用として別途 30,000 円 を承ります。

2. 利用料金

月々4,000 円 (レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000 円) と 年3,000 円 のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願いします。

*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金がかかります。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT フィールドテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。



谷川先生は紙面 4 ページにてご紹介しています。

◆4 コマ漫画作者：詫摩和彦先生
長崎市医師会所属
長崎在宅 Dr. ネット理事

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局(長崎県医師会事務局内) 担当：三浦・苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

編集後記

あじさいネットは主に病診連携および薬局連携に利用されてきましたが、2014 年より在宅医療での利用も始めています。在宅医療用の「地域包括ケア同意書」には、同時に申請者プラス 10 名の多職種の利用者名が記入できるようになっており、この同意書によりあじさいネットへ記入した内容の相互閲覧に対する同意が取得できるようになりました。つまり、この 11 名をある患者さんの在宅チームメンバーとして想定いたしました。また昨年より先行利用者による iPad の利用を始めましたが、今年 4 月頃からは一般会員の皆様も iPad が利用できるようになります。PC 同様の高いセキュリティを設定していますので、あじさいネット利用中は PC 同様インターネットの併用はできませんが、診察室以外や在宅医療の現場でも利用できる点は、あじさいネットの価値がさらに高まるものと思います。但し、利便性が向上することは、一方で情報漏洩のリスクも高まりますので、くれぐれも患者情報を充分に守りながら安全なご利用をお願いいたします。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp